

つながり

あんしん

みどり

将来、超高齢・人口減少社会になっても、一人ひとりに役割と居場所があり、幸せが実感できるまちを目指すための道しるべである3つのフラッグが「つながり」「あんしん」「みどり」です。

つながり

あんしん

みどり

一人ひとりに役割と居場所があるまち
助けがなかったら生きていけない人は全力で守る
ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに

今回は **あんしん** について
をご紹介します。

次回以降の防災サロンのご案内

時 12月23日(月)、1月27日(月)
2月24日(月・振休)、3月30日(月)
10:00～11:00

場 市役所北庁舎2階 和風会議室

問 090-9336-0654(古賀)

他 1回のみのも参加可。
3月30日(月)は被災時に役立つパック
クッキングの実践と試食をします。

安心安全課からのひびく

子づれ備災クラブのパワフルさに圧倒されながら、この半年、活動のお手伝いをさせていただきました。その中で、出会えたさまざまな気づきを本市の防災行政にどのようにフィードバックできるのか検討していきたいと思います。

家庭での備え、地域での備え、そんな備災が災害時には必ず役に立ちます。みなさんでもできる範囲から備災を始めましょう。

まちづくりの達人に聞く
～子づれ備災クラブ、サロン参加者のみなさん～

「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



あるんです。それを全て市で用意するのは無理がありますよね。だったら、自分たちが必要なものは、自分たちで備えておくしかないんです。

情…やっぱり、生活に必要なものはきちんと備えておかないといけないですね。

古賀…でも、ものの備えだけじゃ足りないですよ。ものだけじゃだめなんですか？

情…ものだけじゃだめなんです。防災には3つの備えが大切なんです。1つ目は「もの」。これはもう言わずもがなですね。2つ目は「気持ち」。やっぱり「災害はいつ起こるかかわからない」と思って生活するのと同じなのでは、大きく違うと思います。3つ目は「つながり」です。これは一番難しいけど大切です。

情…「つながり」ですか。市長もよく言っています、なかなか難しいですね。「つながり」を備えるって。

古賀…例えば、災害時。避難所に行きたいけど道路が荒れ果てて行けない。そうだったらどうしますか？

情…自宅にとどまるのでしょうか…。

古賀…そんなことはないですよ。例えば、近くで

一番丈夫そうな家で数家族が集まって、しばらく共同生活をするこもできます。大人が多ければ役割分担ができる。食事を準備する人、情報を収集する人、子どもの面倒を見る人って。一人で全てこなすのは大変ですけど、みんなで協力すれば負担も減るだろうし。

情…確かに。その手がありましたか。でも、私は今はまだできないですね。「つながり」が備えられてない証拠です。古賀さんはできますか？

古賀…私はできます。例えば挨拶をするし、子どもを通して知り合う人も沢山います。「つながり」を備えるためには、地域のイベントに参加するのも一つの方法です。そこで顔見知りになれば、挨拶もしやすくなりますし、「この前はどうぞも…」って会話も広がりますから。顔見知りが増えると、生活上の安心感もグッと上がります。

情…古賀さん、すごいです。今日は驚かされることばかりでした。生活用品の話も共同生活の話も、私には思いもよらなかったもので…。でも考え出すと防災って終わりが

情報課職員(以下情)…今日はよろしくお願いします。
古賀…よろしくをお願いします。
情…早速ですが、子づれ備災クラブについて教えてください。
古賀…子づれ備災クラブは今年の4月に設立し、5月から月に1回防災サロンを行っています。サロンでは、防災、特に子づれ防災に関する色々な課題について話し合っています。
情…自分たちが防災について意見交換をしたいのはもちろんですが、ちょっとだけ防災に興味がある…なんて人の背中を押せたらなという気持ちでやっています。なので飛び入り参加、大歓迎です。
情…なるほど。飛び入り参加可能なのはいいですね。特にママ・パパだとお子さんの体調とかで行けなくなっちゃうことかありますもんね…。
古賀…では、クラブ設立のきっかけを教えてください。
情…今年の2月に防災に関する講座を聴いたのがきっかけです。講座を聴いて「これはまずいぞ。」って。防災ってどうしても成人男性が基準になりがちなんです。例えば、これは他の地域の女性に聞いた話なんですけど…。避難所で男性の係の人に生活用品を求めたら、1つだけ渡されて「大事に使ってね」って言われたそうなんです。女性からしたら「え?」って感じですよ。1つだけ? 大事になってない?」って。
情…でも、これって仕方のないことなんです。だって、防災を考える場にいる人の多くが成人男性だから。それで、ママとか女性の目線からの防災を考えようと思ったんです。
情…確かに、そういう目線からの防災って大切です。今、気づかれました。
古賀…きつとお互いわからないですよ。女性は生活に必要なことから物資としてあると思っている。でも、男性からしたらそんなに沢山必要なんて思わない。そうなんです。みんな、行政が全部なんとかしてくれると思ってる。「長久手市はお金持ちでしょ?」って。でも、6万人いたら、6万通りの必要なものが



子づれ備災クラブ
代表 古賀 めぐみ さん

ないですね。絶対安全なんてないわけですから。最後になりますが、市民へのメッセージをいただいてもよろしいでしょうか。

古賀…行政ができることって限られています。自分が必要なのは自分で用意しておくしかないんです。もしかしたら、物資としてもらえるかもしれない。でも、もらえなかったら困る。それなら、備えておきましょう。それが備災です。大切なのは「もの」「気持ち」「つながり」の備えです。今の備えが、いつかあなたの、そしてお子さんの命を救うかもしれません。「役に立つ日が必ず来る」。そんな気持ちで防災に取り組みしましょう。